



収納と暮らしの関係性とは



住まいとは人が暮らす場であると同時に、モノが収まる場所でもあります。そもそもモノをあまり持たない人でも、断捨離をしたとしても、家族の人数が少なくても、人がいればそこには必ずモノが付いてきます。そこで大事にしたいのが「人とモノとの共存」。ひとつ屋根の下で、人と人、人とモノがバランスよく・快適に循環する仕組みをつくること。仕組み=収納となり、上手く循環させることが暮らしの豊かさに繋がります。

例えば、現在の暮らしにおきかえて考えてみるとします。これをどかさないと掃除機がかけられない、いつも探しモノばかりしている、リビングに家族のモノがちらかっているなど、不満に感じることはありませんか?日々の生活がモノに振り回されていませんか?そのモヤモヤが解消されることで暮らしは大きく変わるはずです。日々の生活は「使っては戻す」という行為の繰り返し。出しやすく、片付けやすい収納スペースを配置して、自分たちの暮らしに合う収納計画を立てることが家族の笑顔に繋がります。



自分たちに合った収納計画を考えるために



抑えておきたいポイントは、家族構成、家族が増える想定があるか(子どもが産まれる、親と同居するなど)、ライフスタイル(家族それぞれの一日のタイムスケジュール)、家事動線、そしてもちろん、家族の所有物の量です。住み始めた当初から生活がまったく変わらないというのは考えづらいので、10年後、20年後…、先の変化を想定しておくのも大事です。なぜなら、家族の成長とともに物量が増え、モノのサイズも変わります。例えば、子どもが女の子なら靴や洋服が増えるでしょう。男の子なら部活や趣味のモノが増えるかもしれません(逆もありますが)。暮らしにあった収納計画を考えるためには、モノのサイズや量、誰が・どこで・いつ使うのか、どう使いたいかが必要になってきます。

このとき注意したいのが、いわゆる一般的な収納スタイルをあまり意識しないこと。ハコに人を合わせるのではなく、人に合ったハコを考えることが大事です。前者の場合、最適な場所に収納できなかったり、日々の出し入れがしづらかったり、モノが入りきらず溢れてしまったり、結局、モノに振り回されてしまいます。一般的な収納スタイルは、あくまでも統計上でつくられています。せっかく注文住宅を建てるのであれば、今の暮らしを分解して、自分たちに必要な収納と動線を見出すのがベストです。

収納計画を進める上でのチェック項目

収納計画を進める上で、現在の暮らし・これからの暮らしを整理しておくといはいいです。ハウスメーカーや設計事務所、工務店など、家づくりのパートナーと間取りを相談する前(または相談中)に下記について考えておきましょう。

- ☑ 現在(賃貸)の間取り(収納スペース中心)
- ☑ 現在の暮らしで困っていること・不満
- ☑ 家族構成・将来の家族計画
- ☑ 家族のタイムスケジュール
- ☑ 家族それぞれのモノの量(容積で換算してもよい)
- ☑ モノをどこで使いたいか(動線や身体の動きも考慮)
- ☑ 新しい家でどんな暮らしをしたいか

※イメージがあればゴールを設定しやすいです。頭で考えていることをビジュアルするとより分かりやすいので雑誌の切抜きなどがあると◎です。



住空間収納プランナーから学ぶ

収納上手な間取りのコツ。

家族のライフスタイルによって、最適な収納の数や広さ、設置場所などが変わってきます。それらを考慮した上で収納を計画するのが注文住宅の良いところ。そこで今回は、間取りが完成する前に抑えておきたい「満足のいく収納」について、住空間収納プランナーで「すずくり(suzukuri)」代表の鈴木アラブギャリ君枝さんに話を聞きました。家族みんなが笑顔になれる収納計画と一緒に考えてみませんか?



この方に話を聞きました。

住空間収納プランナー

「すずくり(suzukuri)」代表

鈴木アラブギャリ君枝さん



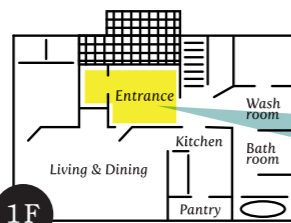
profile

インテリア業界25年。「収納セラピー」という言葉に惹かれ、住空間収納プランナーとなる。片付かないと悩むお宅に伺い、一緒に片付け作業を行う収納サポートを数多く経験。その経験を活かし、新築やリノベーション時に間取りを収納視点で解説してアドバイスをする「収納コンサルティング」も行っている。ハウスメーカーやデベロッパーでのセミナーも好評。日本収納プランナー協会にて資格取得の講師も務める。



【玄関の主な収納物(一例)】

靴・傘・折りたたみ傘・印鑑・鍵・スリッパ・靴のお手入れセット・ベビーカー・ゴルフバッグ・レジャー用品・クーラーボックス・外遊び道具・雨具・散歩用品・防災用品・ペット用品など



CASE 1

家の顔はスッキリシンプルに。

玄関 Entrance

家族はもちろん、来客や宅配便の受取など、たくさんの人が立ち寄る玄関。だからこそ、スペースはスッキリ、見た目はシンプルが理想的。

Check! 土間収納

ベビーカーや外遊びの道具、趣味のもの、濡れたレインコート、花粉が付いたコートなど、家の中に持ち込みたくないモノを収納するのに便利。また、防災用品、宅配の飲料、ペット用品などの収納、一時的なゴミ置き場として利用するのも◎。収納したいモノが決まったら、棚やパイプなど必要な設備と広さを考えましょう。この時、収納したいモノが将来的に変わることを想定した可動式の棚がおすすめ。広さは収納物のサイズと取り出しなどの動作に必要な幅の両方を考慮に入れましょう。1~2畳分くらい確保できるのが理想的。

コレも忘れずに!

POINT

- 玄関の明かりが届かない場合があるため照明は忘れずに。
- 換気扇があると風通しが良くなりカビ対策に◎。
- 靴の収納や一時的なゴミ置き場として利用する場合、出入りしやすい引き戸をつけるのがベスト。部屋の中にニオイが流れるのを防ぎます。

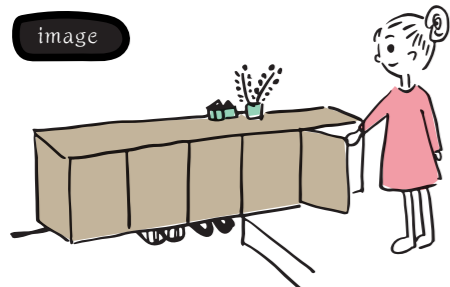


コレも忘れずに!

POINT

- 季節外れの靴は「土間収納」、常時使用する靴は「シューズボックス」と使用頻度で分ける。季節毎に靴の収納場所を変える場合は、入れる数をスペース毎に考えましょう。
- 開き扉にする場合、開く向きによって使いやすさが変わってきます。板の間側にある扉は、開口側に注意して立ち位置から取り出しやすい工夫を。

image



部屋毎の収納について

家族によって最適な収納計画は異なりますが、部屋毎の収納を考える上で知っておくと便利な収納のコツをご紹介します。

Entrance 玄関

家の顔とも言える場所。常時使用する靴を入れる靴箱はもちろん、空間をスッキリ見せつつ、使い勝手をさらに良くするためには「土間収納」もおすすめです。

Living & Dining リビング&ダイニング

家族全員が集まる場所。同時にモノも集まります。寛ぐだけでなく、作業することも多い場所です。子どもがまだ小さい間はリビング学習の場として利用したり、お母さんがちょっとした作業をすることもあります。リビング・ダイニングに収納がないと、ダイニングテーブルやキッチンカウンターの上がモノ置き場になってしまいがちです。動線と作業することを想定して、しっかりとした収納があると便利です。

kitchen キッチン

ここは作業効率の良さが最優先です。家電や食材のストックも置きつつ、作業する場所をスッキリ使いたいなら「パントリー」がおすすめ。また、近い距離で作業を行えるのが効率アップに繋がるため、「背面収納」があると便利です。

Wash room 洗面所

キッチンと同様、家族全員が頻繁に使用する場所です。衣類から洗濯用品、化粧品まで、様々なタイプのモノを収納することになると思います。使い勝手と衛生面を考えて、しっかり分類ができて扉も付いた「壁面収納棚」がおすすめ。

Walk-in closet ウォークインクローゼット

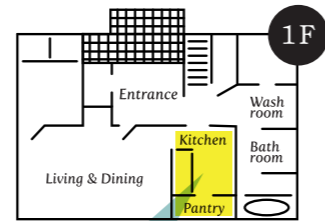
主寝室の隣りや家族の部屋が集まるフロアにあると便利です。棚やハンガーを掛けるパイプなど、入れるモノによって適した設備が変わるため注意が必要です。ちなみに、押入れ収納は布団を入れるのに便利ですが奥行きが80cm前後で深いため、布団以外のモノを入れるには工夫が必要です。また、衣類の掛かったハンガーを無理なく収めるには奥行き55cm以上を確保したいところ。厚手のダウンなどは扉に当たる可能性があるため60cm前後が理想です。必要な設備に加え、奥行きにも注意しましょう。

部屋毎の詳しい収納のポイントは次ページから

【 キッチンの主な収納物(一例) 】

食器・カトラリー・調理家電・調理道具・保存容器・ラップ・ホイル・キッチンペーパー・クロス・掃除用品(洗剤・スポンジ)・調味料・食品ストック(缶詰・レトルト食品・お茶類)・お弁当箱・水筒・ゴミ箱など

毎日使う場所だからこそ、使い勝手が良いのが一番。買物後、帰宅して購入した食材を冷蔵庫に入れる、調理する、並べる、食器を洗う、しまう、ゴミを出すなど、一連の動作がスムーズに行える配置を構築するのが◎。



CASE 3
目指すはコックピットスタイル。
キッチン
kitchen

Check! 背面収納

作業のストレスをより軽減するためには「その一歩」を減らす収納が重要。横の動線が長くなるほど使い勝手が悪くなります。シンクやコンロの後ろにある背面収納を活用して、食器やカトラリー、家電、ゴミ箱などを収納するのが便利(ゴミ箱の場所確保は重要!)。収納するモノによって、仕様(開き扉・引き出し・フルオープン)を変えるのがベター。使用頻度の高いモノは使いやすい位置(目線からおへそまで)に収納するのが良いでしょう。また、腰から下の収納は開きより引き出しにすると身体へのストレスが軽減されます。キッチンは、歩数を増やさない、かがまない、何かに乗らない、片手でも出し入れできることがポイントです。

コレも忘れずに!
POINT

- 電子レンジの奥行き45~50cmに合わせた収納棚に食器を入れる場合、食器の大きさに対して奥行きが深くなるため前後に置きがちで不向き。食器棚ゾーンは35cm前後の奥行きが理想的。
- パントリー内にデスク型のワークスペースを用意しがちですが、意外と有効的に使われないまま荷物置きと化してしまうことも。

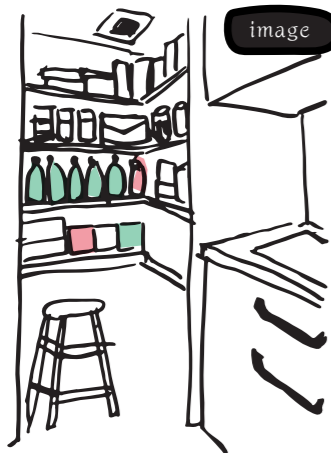


コレも忘れずに!
POINT

- 主に食品を収納するため、通気性を良くする工夫が必要。換気対策としてドアを付けないのもベター。同時に出し入れもラクになります。
- ドアを付ける場合、スペースを取らず、出し入れしやすい引き戸がおすすめ。

Check! パントリー

常温保存が可能な食品や調味料、家電など、キッチンで所有するモノが多い場合にはウォークインできるパントリー型の収納がおすすめ。キッチンをより有効的に使用できます。設置場所は、玄関(もしくは勝手口)とキッチンの両方からアクセスしやすい場所が理想的。玄関の土間収納と同様、設備は入れるモノによって収納方法を変えられる可動式の棚を、広さは収納物のサイズと出し入れの動作に必要な幅の両方を考慮するのが良いでしょう。分別ゴミ置き場としても使えます。



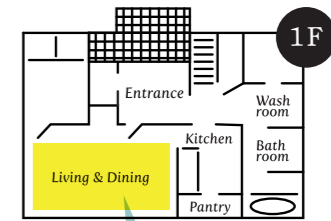
【 リビング・ダイニングの主な収納物(一例) 】

書類(保険や取扱説明書など)・郵便物・すぐ使う文具・PC・TV・ゲーム機器・モデム・リモコン・プリンター・郵便物・DVD・充電コード類・ベビー用品・おもちゃ・絵本・薬・裁縫道具・日用雑貨・ゴミ箱・ティッシュ・新聞・雑誌など

家族のモノが一番集まる場所。一方で空間演出の自由度も高く、収納の設置場所に迷いがち。ここでポイントになるのがモノの使用頻度。使用頻度を意識したモノの循環システムの構築が成功の鍵。

Check! 可動棚式収納

薬やマスク、裁縫道具といった小さなモノから、掃除機や扇風機といった大きなモノまで収納できるクローゼットがあると便利。掃除用品や古新聞・雑誌など、循環システムを取り入れたい場所です。サイズや用途の異なる様々なモノが入るため、ある程度の奥行き(45~60cm程)と可動式の棚を設け、深い奥行きの場合には浅めの奥行き棚と併用すると使いやすくなります。また、スペース内でスティック型掃除機を固定できる下地や充電用の配線をあらかじめ用意しておけるといいですね。



CASE 2
家族みんなが使いやすい。
リビング・ダイニング
Living & Dining



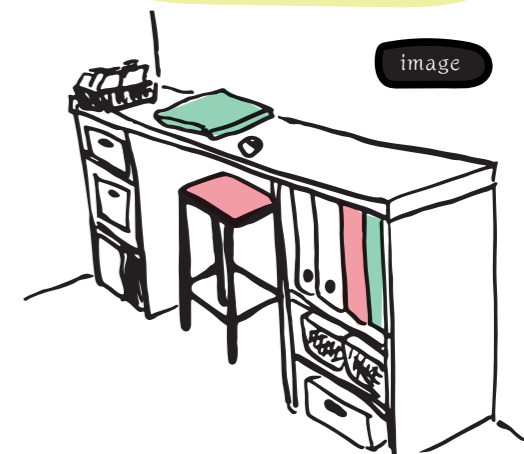
image

Check! デスク型収納

小さな子どものいる家庭の場合、小学校高学年くらいまでダイニングで勉強することが多く、学用品やランドセル、習い事の道具といったモノも付随してきます。そのため、作業から収納まですべての動作を行えるデスク型収納があると便利。郵便物や家族・家の書類を管理したり、お母さんのワークスペースとしても◎。

コレも忘れずに!
POINT

- 使用頻度の高いモノをリビング・ダイニングに収納する場合、特に動線上に収納場所を設けるのがベスト。



image

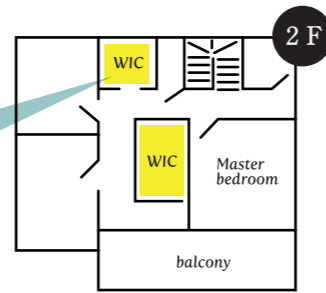
Check! TVボード収納

モデムやDVD、ゲーム機器など、テレビを見るスペースで使用するモノを収納するのが基本。低い位置にTVボードがある場合、電池やコード類など、かがんで奥のモノを取り出す姿勢は億劫になりがち。そのため、引き出し収納で上から見渡せるのが◎。

CASE 5

多様性を意識したマルチな設備。 ウォークインクローゼット

WIC



主寝室の隣りに配置されることが多いですが、最近ではリビング・ダイニングや洗面脱衣所の近くにファミリー用のクローゼットを設けるのも人気。サイズと用途が異なるモノを収納するため、それらを想定した設備をつけるのがより使いやすくて便利。

【ウォークインクローゼットの主な収納物(一例)】

衣類(掛ける・たたむ)・かばん・スーツケース・帽子・アクセサリ・雑貨・ベルト・ネクタイ・趣味のモノ・季節外の布団・季節外の衣類・季節外の靴・脱衣カゴなど

Check! ウォークインクローゼット

クローゼットはハンガーパイプと袋棚の組み合わせが一般的ですが、広いスペースを確保できる場合はウォークインやウォークスルータイプがおすすめ。衣類を吊るすパイプ、細かなモノ(バッグや帽子・アクセサリなど)を入れる可動式の棚など、収納物(形状やサイズ)に合った設備が必要。このとき、モノの使用頻度とその物量を把握しておくのが大事。頻度の高いモノが多い場合は出し入れしやすい設備を、低いモノが多い場合はスペースの上部や下部を有効活用できる設備を設けるなど、空間の使い方で大きく変わってきます。



すずくり(suzukuri)

代表 鈴木アラブギヤリ君枝さん
住空間収納プランナー/インテリアコーディネーター
キッチンスペシャリスト/ホームステージャー

業務内容

インテリアコンサルタント/新築収納コンサルティング
オーダー収納家具製作/壁面デザイン/収納サポート

主な経歴

1971年生まれ。神奈川県横浜市出身。
1992年文教女子短期大学部家政学科卒業後、マチカワブラインド工業株式会社に就職。窓周り全般のノウハウを得る。事務職からメーカーショールームへ異動希望のため、インテリアコーディネーターの資格を取得。販売することに興味を持ち、株式会社ロイズにてヨーロッパアンティーク家具の販売・店長職に就く。ヨーロッパの文化をもっと知りたくなり、バイヤー業務が伴い、直輸入販売ができるアパレルに関わる。その後、株式会社ワイズ・ワイズにて店長、インテリアコーディネート業務、キッチン販売、東京ミッドタウン店立上げ、など、さまざまな経験を積み、集大成として2012年に「住空間収納プランナー」として起業。日本収納プランナー協会、ハウスメーカーなどで資格取得の講師も務める。新築・リノベーション時、家の間取りに収納視点でアドバイスする「収納コンサルタント」としても活躍中。



suzukuri

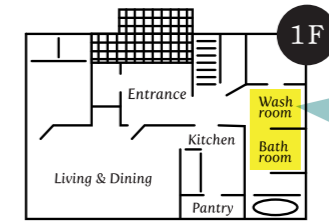
URL: <http://www.suzukuri-k.com/>
blog: <http://blog.suzukuri-k.com/>
Email: info@suzukuri-k.com
TEL: 070-5578-7263

CASE 4

時間毎の用途に注目。

洗面所/脱衣所

Wash room



【洗面所の主な収納物(一例)】

タオル/バスタオル・下着・パジャマ・バスマット・洗濯カゴ・脱衣カゴ・洗濯バサミ・ハンガー・入浴剤・シャンプー類(ストック)・洗剤・ドライヤー・ヘアケア用品・コンタクト用品・基礎化粧品・化粧品・シェイバー類・ゴミ箱・掃除用品など

各スペースが独立している場合と一緒の場合があります。それぞれ必要なモノがあり、その性質は異なります。キッチンと同じくらい使用頻度が高い場所なので、それらを理解し、収納スペースを的確に確保するのが重要。それにより作業効率がさらにアップします。

Check! 壁面収納

家族全員で使うモノが混在し、そして汚れやすい場所。洗面・入浴・洗濯・着替え、それぞれのシーンで使うモノが溢れがちです。壁面収納を設けて使用頻度が高いモノを優先的に収納するのが理想的。着替えなどを収納する場合、下部が引き出しになっていると便利です。また、洗面台横や鏡の裏の収納も活用できると良いです。洗面台の天板上がスッキリし、掃除もしやすくなります。ちなみに、洗面台の下にある収納が開き扉の場合、かがんで奥のモノを取らなければいけないため、頻度の低いモノや形状の分かりやすいモノ、大きなモノを入れるのがベター。洗面所・脱衣所の限られたスペースを有効活用し、モノを管理しやすくなるためにも、シャンプーなどストック類の購入量は必要最低限に、洗剤は使う種類をひとつに決められると良いですね。

コレも忘れずに!

POINT

- 洗面所もしくは脱衣所で一時的に洗濯物を干したい場合は、干すためのボールを忘れずに。
- 洗面所や脱衣所の近くにファミリークローゼットがあると便利。洗う・たたむ・収納するといった一連の作業を効率よく行えます。
- 洗剤などの洗濯用品は洗濯機上に収納棚を設けるのも良い。

